

被災地と交流する友愛活動



阪神・淡路大震災の被害の大きさが報道されると全国から救援の声があがった。救援のための拠金や物資が被災地へ贈られ、多数のボランティアの人々が現地へ駆けつけた。そうしたなかにあって、全国の老人クラブも支援活動を展開した。震災による犠牲者の約半数が60歳以上であり、家屋を失って仮設住宅で生活する高齢者の多くが先の見通しが立たないというなかで、拠金や救援物資を送るだけでなく、高齢者自身による友愛活動が威力を発揮した。こうした友愛活動を通じて全国の老人クラブと被災老連が交流し、地域を越えたクラブのつながりが生まれた。

被災高齢者を励ます、さまざまなきらいは、高齢者にしかできない支援活動である。

被災者のみな様が慰問に対し、必ずご返礼される強い心、友情を喜ばれるあたたかいお気持ちに感動しました。



他人にあたたかい手を差し延べることが自分の心を支え、喜びと返って返ってくることを体験しました。

友愛活動を通じて他人を思いやり、他人の幸せを願える心の尊さを学びました。



避難所で生活していたときに友愛訪問を受けたことは、涙が出るほどうれしかった。悲しいときの人のご親切、身にしみています。忘れません。

震災体験から、人と人が助け合う姿の美しさに感動しました。

友愛活動を通じて見知らぬ人と友だちになれ、震災の苦しみなど吹き飛ばしてしまいました。